



生徒が変わる リーダーシップ教育で

いかにリーダーシップを育むか。

学校現場に限らず、企業など社会の現場においても、

かねてから問われ続けている命題だと思います。

しかし今、そのリーダーシップに変化が生じています。

日本の産業構造が大きく変わり、雇用の在り方や働き方も変化しています。素早く状況を察知して、改善・改良していくマネジメントの時代から、状況を的確に把握して課題を探り出し、新たなことを成し遂げるリーダーの時代へ。

社会の課題を見つけ、より良い社会を思い描いていく、そういう当事者意識をもって状況を捉えることが大切になってきます。

そのためには、人それぞれの強みをベースに、

人と異なることを恐れずに取り組むマインドが必要になります。

でも、豊かな日本では社会課題を感じにくいのも事実。

特に調和が求められる日本の社会では、人と違うことに躊躇いもあり、当事者意識をもつことは、実はそう簡単ではありません。

学び合いや協同学習が話題の今、グループワークの光景に一種の違和感を抱く場面があります。役割が固定化されたチームでは、新しい発想は特定の人に委ねられてしまう。

生徒一人ひとりが自らの強みを発揮して、思考を巡らせ、

多様な見解を認めながら、主体的に未来を描いていけたら。

今、高校での取り組みに何が必要なのでしょうか。

先生方の授業改善やカリキュラム・マネジメントのヒントに、

本特集が少しでもお役に立てば幸いです。

山下真司(本誌 編集長)

